

歴史あるリユースの優等生

1. 8Lびんを支える

「6本プラ箱」と「エコマーク」



1. 8Lびん(一升びん)



6本プラ箱



歴史あるリユースの優等生1. 8Lびん(一升びん)

<簡単な歴史>

- ・明治29年(1896年)
磁器製の一升瓶が輸出用として使用される。
- ・明治30年代
「灘」蔵元が人工吹きの子硝子の一升びん詰めを売り出す。
- ・大正13年(1924年)
自動製びん機製の一升びんが登場。加速度的に一般家庭へ普及していった。



<リユースされる歴史>

- ・大正時代には空きびんを回収する「壘商」が100軒くらいあった。
- ・壘詰めされた製品は酒蔵→酒屋→需要者(飲食業・家庭)へと回る。そして各家庭で空になった空きびんを「寄せ屋」が回収して回り、その仕訳・洗壘・まとめを「壘商」が行い、元の酒蔵に買い取ってもらうという流れが大正時代に出来ていた。
- ・「壘商」は現在「全国壘商連合会」を組織し日本全国でびんのリユースに貢献。
(平成25年3月末:508社)

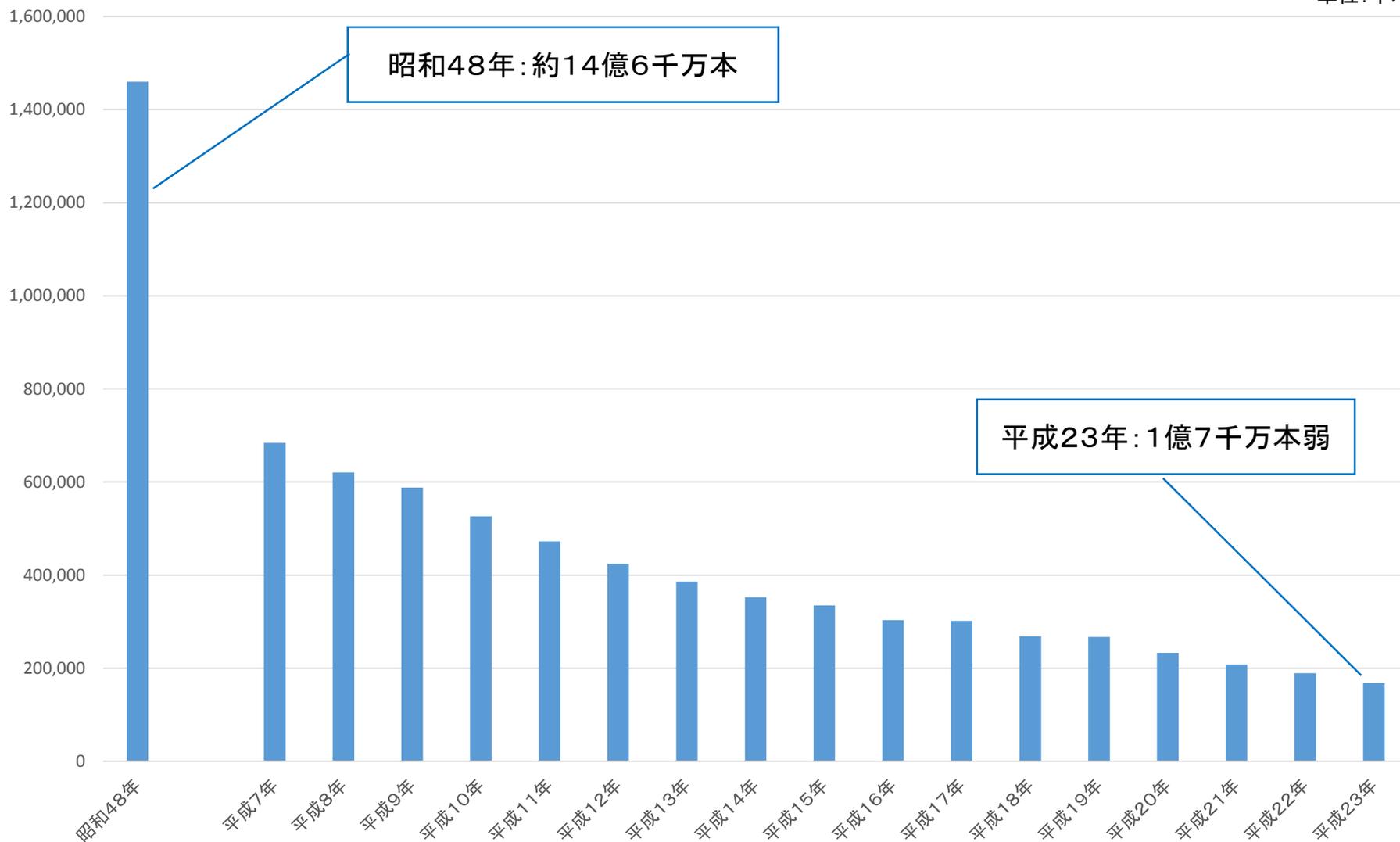
参考文献:「びんの話」 山本孝造 社団法人 日本能率協会

1. 8Lびん(一升びん)は我が国で100年以上リユースされる歴史を有しています。

容り法18条に基づきリターナブルびんとして自主回収認定を受けています。(メーカーは出荷に伴う負担金免除)

1. 8Lびん(一升瓶)の流通量

単位:千本



昭和48年:約14億6千万本

平成23年:1億7千万本弱

かつて、

1. 8Lびん(一升びん)の流通・運搬用には「木箱」が使用されていました。

- 重い・・・
- 衛生的問題・・・

「木箱」(1. 8Lびん×10本入り)



灘・伏見の大手蔵元及び地方蔵元が新木箱を作り、新びんを入れて出荷。壺商が回収して地方の蔵元が1. 8Lびん・木箱をリユース使用。

新日本流通は、清酒流通にかかわる清酒メーカー・酒類問屋・小売酒販店等のさまざまな意見と要望を採りあげ、あらゆる視点から清酒流通の合理化をはかるべく、昭和48年、灘、伏見の大手蔵元14社と三菱商事・国分(株)他の共同出資により設立。「6本プラ箱」のレンタルシステム事業の運営をスタートしました。

- ・ **昭和48年「6本プラ箱」登場！！**
- ・ **軽い！！労働基準法の基準範囲内**
- ・ **洗浄し繰り返し使用可（リユース）
（衛生的）**



設立:昭和48年10月

株主構成:

- ・三菱商事プラスチック(株) 41.6%
- ・国分(株) 18.3%
- ・清酒メーカー13社 28.4%
- ・プラスチック加工メーカー 7.6%
- ・その他 2社 4.1%



<レンタル地域拡大軌跡>
昭和48年10月

大阪府全域

昭和50年 9月

近畿2府4県全域

昭和57年10月

東京首都圏1都3県

平成 6年 7月

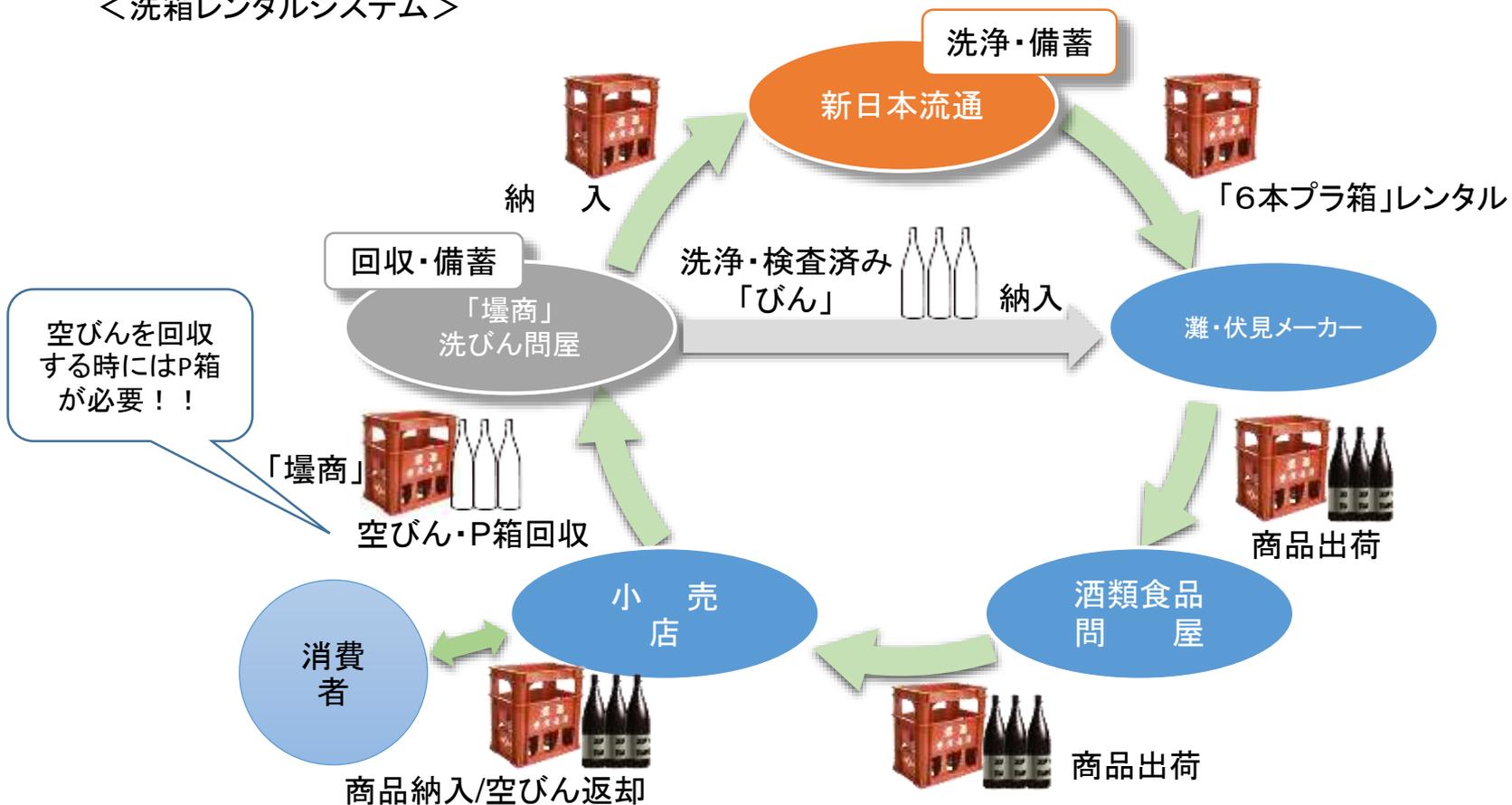
北海道全域

現在、沖縄県を除く全域に流通拡大し全国1,100社余りの酒類・飲料メーカーにご使用いただいています。

※エコマークは平成21年に認定を受けました。

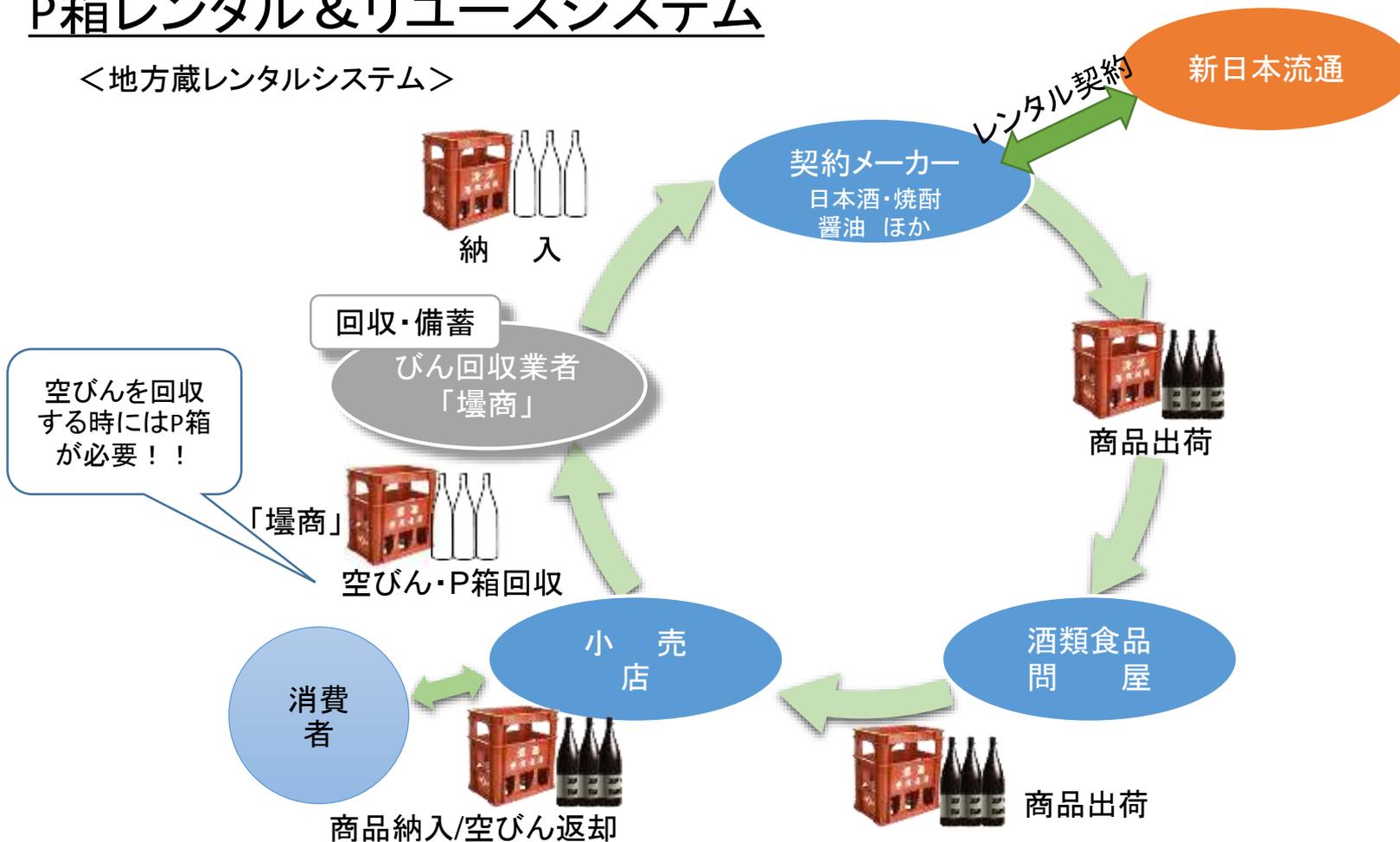
P箱レンタル&リユースシステム

<洗箱レンタルシステム>



P箱レンタル&リユースシステム

<地方蔵レンタルシステム>





新日本流通は昭和48年から運営しているリユースシステムを

平成21年に「P箱レンタル&リユースシステム」として、
エコマーク認定を取得しました。

<取得の理由>

我が国で一番認知度の高い環境ラベルである「**エコマーク**」を活用し、メーカー、流通段階、料飲店にPR。
加えて**一般消費者**の方々にもPRし、持続可能社会の
形成・維持活動に寄与する企業でありたい！！

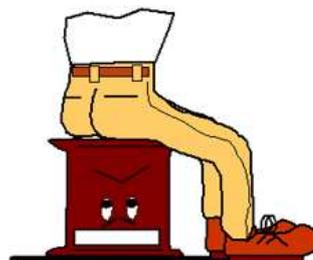


新日本流通は昭和48年から運営しているリユースシステムを

平成21年に「P箱レンタル&リユースシステム」として、
エコマーク認定を取得しました。

<取得の背景>

- ①6本プラ箱の用途外利用に対する啓蒙が必要！
- ②インターネット販売の増加に伴い、6本プラ箱が一般家庭に入り込む比率の増加。
- ③1. 8Lびんの流通量減少に歯止めをかけたい！





<現状>



木箱



6本プラ箱



段ボール



紙パック容器



- ・回収義務が無い。(容り法:負担金支払い)
- ・リサイクルしにくい。
(ポリエチレン/ポリエステル/アルミホイル
ポリエチレン/紙/ポリエチレン)6層構造
- ・「酒パックリサイクル推進協議会」を組織しているが、ほぼ大半が自治体でのゴミ処理。

- ・民間企業活動の中でリユースシステム構築。
- ・空1.8Lびんの回収に6本プラ箱が貢献。
- ・びんをリユースするには必要不可欠！！
- ・ゴミの発生は限りなくゼロ！！



- ・回収する時に入れる容器がない。
- ・カレット処理。
- ・自治体税金負担。
- ・1.8Lびんが自主回収認定を受けていてもリユース出来ない。



<実績>



6本プラ箱

平成23年度全1. 8Lびん製品(清酒・焼酎・醤油・味醂等)出荷本数は167,814千本でした。そのうち約40%が弊社「6本プラ箱」で出荷されました。

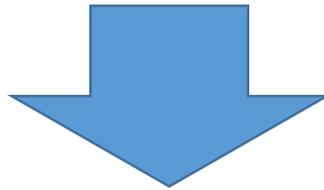
1. 8Lびん再利用事業者協議会 資料より



+



6本プラ箱



既に酒類業界等でインフラ流通として認知され、1. 8Lびん流通の 40%を担っているシステムにて**エコマーク**をPRする事は相乗効果が大
きいと考えます。又、**エコマーク**の認知度を活用して一般消費者に
「1. 8Lびん」「6本プラ箱」の事をご理解頂くキッカケを作りたい。

エコマークを用いての活動





<エコマーク表示>

全箱には表示して
いません。
一部「6本プラ箱」
のみ





<エコマーク表示>

名刺裏に表示し、お客様とのコミュニケーションツールとして活用しています。





<エコマーク表示>

弊社HPに「エコマーク商品認定」と題して表示し、エコマークについての説明及びエコマーク事務局HPアドレスも表示し認知度向上に努める。





<エコマーク表示>

一般消費者、各関係先に配布する6本プラ箱の不正使用防止とリユース促進啓蒙チラシに表示。同チラシは新聞折り込みチラシを用いての啓蒙活動にも利用している。



＜環境全般についての活動＞

「ひょうごエコフェスティバル」に2010年より出展。兵庫県内の団体、企業等が取り組んでいる環境保全、創造活動の発表の場。子供から高齢者まで幅広い世代の県民が理解と関心を深める大会。

『「お酒のケース」のリユースで身近なエコ活動』と題しブース出展し環境活動を行う。





<環境全般についての活動>

LEAF(特別非営利活動法人子ども環境活動支援協会)の環境教育事業に参加。兵庫県西宮市内事業者と連携し、西宮市内小学校に出前授業「お酒とびんのものごと」を実施。2005年から環境教育活動を続ける。





<今後の展開について>

他容量びん(900mlびん、720mlびん、300mlびん等)に対応出来る各プラ箱にて展開をはかり、エコマーク基準をクリアするシステムで開発を進めます。

しかし、進捗させるには、各種類のびん容器の統一が絶対条件となります。

「びんリユース推進全国協議会」や「我が国における瓶リユースシステムの在り方に関する検討会」(環境省)に参加・協力しリユースびんの統一に向けて活動しています。

私達、新日本流通は**エコマーク**を活用し歴史あるリユースシステムを維持・存続させる努力を続けます。

ご清聴ありがとうございました。

 **新日本流通株式会社**